

## 令和5年度第2回広島県食育推進会議 議事要旨

**日時** 令和5年12月19日（火）13:00～14:30

**場所** オンライン開催

**出席者** 森脇委員（会長）、魚谷委員（副会長）、瀬川委員、元廣委員、立石委員、佐藤委員、手塚委員、山田委員、宇佐川委員、畑山委員、岩永委員、山本委員、今榮委員（代理：竹原市健康福祉課 茅野健康対策係長）、橋本委員（以上14名）

### <議事>

#### 開会

会長挨拶

広島県においては、全ての県民のQOLの向上を目指し、食育推進計画をはじめとする10の計画の改定作業が行われている。

本日は第4次計画の素案について御協議いただく。よろしくお願ひしたい。

#### 議事1 第4次広島県食育推進計画の素案の概要について

事務局説明

現行計画においては、施策体系と取組内容を、家庭、学校、保育所・幼稚園、職場等の場面ごとに記載しているが、次期計画においては、課題に対する取組が一連の流れとしてつながるよう、施策区分～施策の方向～主な取組の順で記載した。

次期計画の主な取組は、次のとおり。

- 1日の食塩摂取量の減少
- 1日の野菜摂取量の増加
- 毎日朝食を食べる県民の割合の増加
- 高齢者の低栄養の予防
- 子供や若い世代に対する食育の推進
- 健康で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブの推進

#### 質疑、意見交換

山本委員： 減塩という言葉について、イメージを良くするような、他に良い表現を検討していただけないか。

食塩の摂り過ぎは身体に良くない、県の現状が目標に達していないというのは承知しているが、生業が漬物製造業ということもあるのだが、塩＝悪であるようなイメージが気になっている。

事務局： 公の計画であるので、現状から減らすという意味で減塩という単語を使用しているが、具体的な施策に落とし込む際には、少し柔らかいイメージの単語を使用したいと考えている。

三次市で減塩の施策に使用されている「健塩」、「かるしお」など。

森脇会長： 子供関係の委員からも御意見を聞きたい。佐藤委員、保育所での取組などいかがか。

佐藤委員： 保育所では、離乳食のおいしさ、味付けを控えた素材そのものの味を、子供や

保護者にどう伝えるか工夫している。

保護者に対しては、乳幼児健診の場などにおける食育情報の提供などを、保健師や栄養士などの専門職と連携して実施している。

森協会長： 学校等での取組状況はどうか

山田委員： 学校での取組としては、学校給食センターの取組が主になる。また授業の中でも取り組んでいるが継続が難しい面もある。

家庭との連携というところでは、給食だよりなどを通じて家庭への啓発を図っている。

## **議事2 第4次広島県食育推進計画の目標項目・目標値について**

事務局説明

現行計画においては目標項目が24あったが、次期計画では15に絞っている。

重点目標については、現状同様に3項目。重点目標を補完する項目として1項目を立てている。その他、重点目標等以外の目標項目を11項目とした。

新規の項目として、栄養成分表示の活用度等の6項目を設定している。

なお、目標値の設定に当たっては、国計画との整合を図りながら、過去の目標の達成度を踏まえ検討した。

### **質疑、意見交換**

森協会長： 現行の計画をもとに、高齢者や子供という社会的弱者に対しての取組が多くなっているように感じる。また新規に食環境整備を行うということ。目標項目、目標値について意見等あるか。

平素から高齢者とのかかわりが深い魚谷委員に意見をお聞きしたい。

魚谷委員： 診療する中で会うのは疾病を抱えた方がほとんどだが、薬を山ほど飲んでも良くならない方というのは、食事と運動という基本的なところが十分でない場合が多い。生き物としてのサイクルというのが自然にできれば体調も良くなるのではないか。

今回、共食というのがあるが、楽しく食べるという事は重要である。行政や地域の人たちといった関係者が少しずつ取り組むことにより、想像以上の効果が出るのではないかと期待している。

茅野係長： 竹原市では食生活改善推進員を中心に食育に取り組んでいる。コロナで活動が停滞していたが少しずつ回復している。また、竹原食育未来会議という組織を立ち上げているが、その中で、地域の方と一緒に取り組んでいる。

岩永委員： 毎日朝食を食べる人を増やすという目標に対してお聞きしたい。

なぜ朝食を食べないのか聞くと、「食べた後にお腹が痛くなるため食べられない。」という回答が返ってきたことがあった。どのような理由で起きるのか。

魚谷委員： 通常食物を食べると消化吸収に向けて体が動く仕組みがあるが、ストレス等により体が過剰に反応し、過敏性腸症候群と言うのだが、下痢や便秘になったりする。

食事の摂り方や腸の動きなどを踏まえ、必要に応じて投薬による治療が行われる。

## 事務局説明

参考資料5に示すイニシアチブについて追加で説明をさせていただきます。

本県においても、企業との連携は行っていたが、1対1で実施しており、健康課題を共有し連携・協働により取り組むというところには至っていない。

新たに推進する「イニシアチブ」は、産学官で構成する組織体において健康課題を共有し、参画する企業には健康課題解決のための目標を設定していただく。それぞれが知恵を出し合いながら、課題解決に向けた検討及び具体の事業を実施していくというもの。

食環境の整備は、広島県全体で取り組む必要があると考えており、保健所設置市（広島市、呉市、福山市）と担当者協議を開始する。

森協会長： 栄養士会から意見はないか。保護者の立場、また農林漁業者代表としての意見もいただきたい。

元廣委員： 「栄養の日」の取組を、来年度は各支部で実施することとしている。  
事業を展開する中で、各方面との連携が必要と考えており、この会議に参加しておられる委員の所属ともつながりを深める必要を感じている。  
目標項目・目標値のところであれば、食文化を受け継いでいると思う人を増やすとあるが、質問に対するその人の受け取り方により回答が難しくなるのではないかと感じる。

立石委員： P T A連合会としての取組は特にはないが、給食を通じた取組が主となると思う。  
資料の中で、若い年代のやせが課題である一方、肥満の問題にも触れていたかと思う。これらは食育の取組で改善していくのではないかと。大変勉強になった。

畑山委員： コロナ感染症が5類に移行し、小学校等に出向いての出前授業等が増えていると報告を受けている。現在、国際紛争による食料安全保障が問題となっているが県民にはしっかり理解していただきたい。  
輸入食材の高騰から、県産や国産への意識も高まりつつある。地産地消につながる活動を展開していきたい。

森協会長： 幼稚園での体験活動の取組についてはいかがか。

手塚委員： 各園によって実施内容は違うと思うが、当園でも体験活動を実施している。  
体験活動を行うと、普段食べなかった子供が食べるようになったりする。  
今年、園に植えているサクランボが大量に収穫できた、園でも食べたのだが、ジャムにして、保護者参観時に試食してもらったなどした。  
今回計画には、レシピの作成配布や共食など具体的な取組が書かれていて大変良いと感じる。各方面と共有したい。

森協会長： 広島県の食育基本条例では、食育推進会議の委員について、食育に関して知識と経験を有するものという記載がある。委員の皆様には、これまでの豊富なご経験、知識をもとに、貴重な意見をいただいた。

事務局においては、本日の意見をもとに素案を確定させるとともに、必要に応じて委員への情報提供をお願いしたい。

最後に今後のスケジュールについて事務局から案内をお願いする。

### **議事3 計画策定に係る今後のスケジュールについて**

事務局： 1月に、確定した案を議会に諮り意見をいただく。併せてパブリックコメントを実施し、県民から広く意見を募る。

年度末3月に第3回目の会議を開催し、最終案について審議いただいた後、新しい計画を策定という流れ。

年度末でお忙しいと思うが、引き続き協力をお願いしたい。

本日審議いただいた素案は、多少の変更や修正を行うことがある。次回会議の開催が3月となるため、微修正については会長に相談し、会長一任という形をとらせていただきたいと思います。御了承いただきたい。【満場一致で了承】

### **田所部長 閉会挨拶**

本日は年末のお忙しい中、委員の皆様には熱心に御協議いただき、ありがとうございました。

本県においても、社会情勢の変化により少子高齢化や単身世帯の増加が一層進展し、個人の価値観、ライフスタイルもますます多様化していくと思われまます。

また新型コロナウイルス感染症の拡大は、働き方や健康に対する意識や行動、言い換えれば私たちの生活そのものを大きく変えるきっかけとなりました。

こうした変化の中にあっても、「食」は人が生きていく上で欠かすことができないものであり、人生100年時代を健康に過ごすための食育はますます必要になってくると考えます。

本日いただきました御意見・御提案を踏まえ、引き続き食育の推進に取り組むとともに、第4次計画の最終案作成を行って参ります。

委員の皆様には、引き続きの御協力をお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

### **閉会**